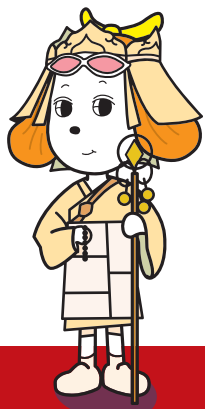




第65期 事業報告書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで



西遊記

表紙のキャラクター

2006年版ドラマ「西遊記」は、孫悟空＝香取慎吾、三蔵法師＝深津絵里、沙悟浄＝内村光良、猪八戒＝伊藤淳史という豪華キャストと、斬新なストーリー、そしてオーストラリアでの海外ロケ等、ドラマ史に残る壮大なスケールの作品として、日本中に旋風を巻き起こし、高視聴率を記録しました。

また、マンガとの連動企画や、映画化決定（2007年夏 全国東宝系で公開）など、今後もドラマの枠だけに留まらない広がりを見せようとしています。

今回の表紙ではラフ君が孫悟空、ラフ君の「ナマカ（＝仲間）」が三蔵法師たちを演じています。

Contents 第65期事業報告書

- 02 ごあいさつ
- 03 トップが語るフジテレビ
- 07 フジテレビアウトライン
- 11 フジテレビピックアップ
- 13 特集「ワンセグ」
- 15 連結財務諸表
- 17 単独財務諸表
- 19 グループ・ネットワーク一覧
- 20 グループ会社紹介「(株)ディノス」
- 21 会社概況
- 22 株式情報

ごあいさつ



代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝久

代表取締役社長
(President & COO)

村上光一

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配にあずかり、厚く御礼申し上げます。

当期の経済環境は、当初は景気拡大の一時的な調整局面にありましたが、個人消費や輸出の回復、情報化関連分野の在庫調整一巡を受けて夏頃には持ち直し、底堅い回復基調となりました。こうした情勢を背景に広告市場は、愛知万博の効果などにより前年に引き続き堅調でしたが、テレビ・ラジオ広告費は、前年のアテネ五輪特需の反動もあり、ほぼ横這いでの推移となりました。

こうした環境のもと、当社は株式会社ニッポン放送を完全子会社とするグループの再編を行い、経営の効率化及び業績の向上に取り組みました。その中で、昨年度に続き2年連続で視聴率四冠王を獲得、売上高についても民間放送業界で23年連続日本一を達成し、売上新記録を更新することができました。

視聴率は年間を通して安定的な成績を取め、ドラマ、バラエティ、情報、スポーツそして報道のすべての分野の番組で偏りなく視聴者からの支持を得ることができました。映画事業におきましては、当期中に公開したフジテレビ映画が軒並み大ヒットを記録し、平成17年の興行成績において邦画全体の23%ものシェアを占めることができました。これら人気テレビ番組や映画作品のDVD化や関連グッズの商品化による権利ビジネスも順調に推移しました。また、イベント事業にも積極的に取り組み、「アレグリア2」を筆頭に大型イベントが

大成功を取めました。デジタルコンテンツ事業では、インターネット関連、モバイル関連の充実を図るとともに、ワンセグのデータ放送を使った様々な実験的試みにも着手しております。

ところで昨年、放送行政上の枠組みや制度変更、あるいは映像における著作権問題、そして放送と通信のあり方の問題などについて様々な議論が活発化しております。例えば、「マスメディアの集中排除原則の緩和議論」や「純粋持株会社化」等については、その是非を議論することとは別に、制度の変更にいち早く対応できる体制になっているかどうか重要だと考えます。その点において事業持株会社化した当社の対応しうる選択肢は多く、ビジネスチャンスが広がると考えています。当社を事業持株会社とするグループ体制を強化し、経営資源の選択と集中を行っていくことで、グループ各社のパワーと創造性を最大限に発揮し、相互のシナジー効果を高め、国内最大のメディアコングロマリットを標榜し、高い競争力をもつ企業として発展していく所存でございます。

ここに、平成17年度の事業概況をご報告いたします。今後も株主の皆様のご期待にお応えできますよう、着実な成長を目指してまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年 6月

Top Interview

トップが語るフジテレビ

代表取締役社長 村上光一

平成17年度はフジテレビにとって どのような年だったのでしょうか？

当期はおかげさまで視聴率のトップを堅持し、売上高も23年連続NO.1を達成いたしました。また映画、イベント、DVD、マーチャンダイジング事業などの非広告部門も極めて順調に推移し、メディア・コンテンツ産業の中でのリーダー的立場を揺るぎないものとなりました。

広告業界を取り巻く環境はいかがでしたか？

平成17年の日本の広告費は、愛知万博の効果などにより前年に引き続き増加しましたが、テレビ・ラジオ広告市況は、前年のアテネ五輪特需などの反動もあり、(株)電通発表の『2005年日本の広告費』によりますと、平成17年のテレビ広告費は前年比99.9%の2兆411億円とほぼ横ばいでした。

視聴率が好調ですが、それぞれの 番組ジャンルごとの状況を教えてください。

通期の番組視聴率は、視聴者のご支持を得て前期に引き続いてゴールデン（19～22時）、プライム（19～23時）、全日（6～

24時)およびノンプライム(6~19時及び23~24時)の各時間帯で1位となり四冠を獲得いたしました。

連続ドラマは年間を通じて好調でした。その中でも「エンジン」「電車男」「危険なアネキ」「西遊記」「1リットルの涙」が20%を超える視聴率を獲得しました。また単発スペシャルドラマでは、今年1月に放送した「古畑任三郎・ファイナル」の3夜連続スペシャルが視聴者からの圧倒的な支持を受け、平均で26%の視聴率を獲得いたしました。バラエティ番組は、昨年10月に「はねるのトびら」が放送時間を深夜からゴールデンタイムに変更し、若者を中心とした広い層から支持を受けバラエティ番組の新しい顔となりました。その他でもプライムタイムにおいて半数以上を占めるバラエティ番組が視聴率全体に大きく貢献しています。朝の情報番組も引き続き好調で「とくダネ!」は平成13年2月以来5年連続で月間視聴率トップの座を堅持しています。報道番組も「スーパーニュース」が主戦場の夕方の時間帯で4年連続視聴率トップを続け、昼の「スピーク」も今年度トップに躍進しました。スポーツ番組では、フィギュアスケートが新しい看板番組に成長し、昨年12月の全日本選手権は33.7%を記録しました。サッカー・コンフェデ杯、バレーボー

ル・ワールドグランプリ、世界柔道、F1など国際的なビッグ・イベントの中継も好評を博しました。このようにどのジャンルにおいても偏りない強みを発揮したのが当期のフジテレビの視聴率状況でした。

■ 広告営業セールスの売上状況はいかがでしたか？

ネットタイムセールスでは、レギュラー番組が好調だった結果、売上は1,351億7百万円で前期比0.9%の増収となり、過去最高の実績となりました。

ローカルタイムセールスも好調に推移し、売上は225億75百万円で、前期比2.4%の増収となりました。

スポットセールスは、前期からの景気回復基調を受け、上期は売上新記録を更新しましたが、第3四半期において、非アルコール飲料、化粧品・トイレタリー、精密機器などの業種が伸び悩み、前期を下回りました。第4四半期では再び好調を取り戻すことができたが、通期としては前期に及びませんでした。業種では、薄型テレビ、DVD・HDDレコーダーなどのデジタル家電を含む家庭電化製品が堅調に推移、また、金融、マンション販売を中心とした不動産・住宅設備、交通・レジャ

■ 民放連が考える「放送と通信」

昨今、竹中総務大臣諮問の懇談会が開かれるなど、放送と通信の問題に関心が高まっています。日本民間放送連盟(民放連)は、こうした政府や各政党内で行われたヒアリング等において、積極的にその考え方を提示してきました。

放送と通信を考える上で、大きな契機となっているのが2011年の地上テレビ放送の完全デジタル化です。放送局は国が掲げるIT戦略推進の観点から、国民にとって最も身近なメディアである放送のデジタル化を積極的に進めています。

通信のブロードバンド化が進む中で、放送のデジタル化と相まって機能やサービスが「融合」していくという見方があります。しかし、民放連では、それぞれの特徴を活かした「連携」こそ、国民に役立つサービスとなり、テレビを軸とした新たなサービス、新しい価値を創造する機会が生ま

れるものと認識しています。

なぜなら、放送と通信とでは、その役割に違いがあるからです。放送(特に基幹メディアの地上放送)は、同時同報性により情報を広く国民全体で共有する「1対n」の仕組みで、広くあまねくが基本です。一方、通信は「1対1」の伝送路で「通信の秘密」の義務が基本です。放送は、国民のライフラインとしての役割を担い、国民の「知る権利」に依って「民主主義」を根底から支えるメディアとして、通信とは次元の異なる規律が適用されています。「連携」という言葉には、放送と通信がそれぞれの持ち味を活かしながら協調して新しいサービスを生み出し、国民の役に立ちたいという民放連の考え方が反映されています。

そのような前提にたって、民放連加盟各局は、国民が必要とする情報の提供手段として、地上デ

ジタル放送の補完措置も含めて、ブロードバンドや携帯サービスなどの活用を進めようとしています。その際、各局が通信事業者の方々に望んでいるのは、良質な画面と安定的な通信ネットワークの運用です。これは、通信において放送の役割を果たすためにとても大切な条件となります。

民放連が機会あるごとに、このような考え方をアピールしてきた成果もあり、関係各所での理解は深まりつつあるようです。民間放送事業者は今後も謙虚に自らを律しつつ、国民に信頼されるメディアとして社会的責任を果たし、放送文化の向上に寄与していく方針であり、「放送と通信」についてもこうした役割を深めるような、現実的で実りのある議論が展開されることを期待しています。

ー・観光などでシェアを拡大しました。売上は1,389億28百万円で前期比1.2%の減収という結果になりました。

■ その他事業の状況はいかがでしたか？

映画事業は年間を通じて好調で「交渉人 真下正義」、「電車男」、「容疑者 室井慎次」など当社製作5作品が平成17年邦画興行収入ランキングベスト10入りしたほか、今年1月に公開した「THE有頂天ホテル」も大ヒットを記録しております。イベント事業では14ヶ月466公演に及んだ「アレグリア2」が114万人、恒例となった夏の「お台場冒険王」が過去最高の464万人を動員し、また、権利ビジネスにおいては「ドラゴンボールGT」DVDボックスや「脳内エステIQサプリ」関連商品の『モヤッとボール』がヒットするなど、当期も好調でした。売上は545億83百万円で前期比7.0%の増収となりました。

■ 放送事業全体での成績はいかがでしたか？

好調な視聴率を受けて「テレビ放送部門」の売上高は3,815億64百万円で前期比1.5%の増収となり、売上新記録を達成することができました。

放送事業全体としては、新規連結のラジオ放送部門が加わり、売上高は4,100億3百万円で前期比9.0%の増収となり、営業利益

も409億36百万円で前期比5.5%の増益となりました。

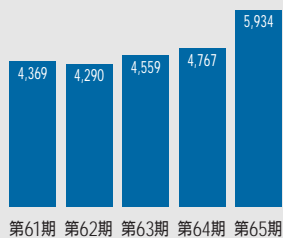
■ 当期のグループ子会社を含む 連結の業績はいかがでしたか？

昨年9月の㈱ニッポン放送の完全子会社化に伴いグループの再編を行い経営資源の選択と集中による業績の向上に取り組みました。この結果、当社グループの連結売上高は5,934億93百万円で前期比24.5%の増収となり、営業利益は通信販売事業で減益となりましたが、連結子会社の増加による利益増などに支えられ、507億24百万円で前期比16.4%の増益となりました。また、経常利益は、503億40百万円で前期比13.2%の増益となりました。しかし、当期純利益はライブドア株式の売却などにより投資有価証券売却損を特別損失に計上したことが大きく影響し、113億45百万円で前期比50.3%の減益となりました。

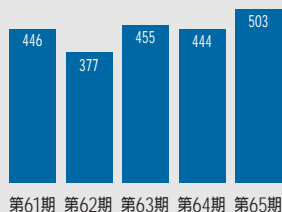
■ 主な関連子会社の成績はどうだったのでしょうか？

㈱ディノスは美容・健康用品やファッションを中心にカタログ通販事業が堅調に推移し、インターネットによる売上も前期比で57.1%伸びたことで、㈱ディノスを中心とする通信販売事業の売上高は697億39百万円で前期比2.0%の増収となりました。一方、営業利益は、検品体制の強化や返品送料の負担など

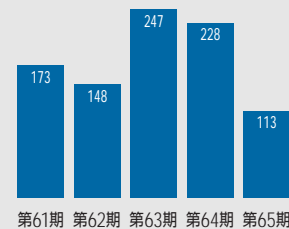
■ 連結財務ハイライト



売上高 (億円)



経常利益 (億円)



当期純利益 (億円)

顧客サービスの向上を目指した取り組みにより通販経費が増加したことで、12億79百万円で前期比43.1%の減益となりました。

㈱ポニーキャニオンは「ドラゴンボール」シリーズや「交渉人 真下正義」、「踊る大捜査線」などのDVD作品が大きく売上に貢献しました。この結果、㈱ポニーキャニオンを含む9社からなる映像音楽事業の売上高は735億66百万円で、営業利益は39億56百万円となりました。

その他、リリー・フランキー著の「東京タワー」が120万部を越えるベストセラーとなった㈱扶桑社や、ワンセグ放送関連の大型受注のあったソフトウェア開発の㈱フジミックなどの売上も堅調に推移しました。

“放送と通信の融合” についての 考え方をお聞かせください。

放送と通信には技術的特性の違いがあり、それゆえ違う役割を担っています。その両者が単純に融合するのではなく、それぞれの特性を相互に補完・連携しあうことで新しい価値を創出できると考えます。従って、当グループとしても事業メリットのあるものに関しては、通信を積極的に利用し連携すべきだとの考えのもとに、これまでも様々な研究や開発を進めてきました。

コンテンツ・ホルダーとしての当社や㈱ポニーキャニオンにとってインターネット網は将来の有望な出口として期待しています。また当社のマーチャンダイジング事業や通販会社の㈱デynosにとってインターネットでの販売は既に有効なツールになりつつあります。他にも携帯電話やワンセグのデータ放送などの通信を利用した新規事業にも積極的にトライしています。

通信網を使った独自の無料広告型の映像配信サービスあるいはコンテンツ課金型の映像配信サービスが各種始まっていますが、テレビ放送サービスを補完するメディアに成長するのか、あるいはテレビメディアを脅かす存在になるかどうかを論じる段階まで、まだ市場ができていないと考えます。引き続き、市場の動向をつぶさに見ながら戦略を構築していくつもりです。

通信を利用した

具体的な事業についてお聞かせください。

まず、昨年7月からは、本格的なブロードバンドによるコンテンツ配信サービスとして、「フジテレビ On Demand」を立ち上げました。このサービスは、フジテレビの番組コンテンツをオンデマンド形式で有料配信するもので、ブロードバンド環境にあるパソコンや、提携するコンテンツ配信事業者のSTBで視聴することができます。配信コンテンツは、現在、CS放送「フジテレビ721・739」のオリジナルコンテンツや、配信権を有するスポーツコンテンツなどを中心としておりますが、ユーザーの動向やサービス環境の変化、とりわけ著作権に関する諸動向を見ながら、徐々に提供するコンテンツの範囲を拡大して行く計画です。

また、今年4月から本放送を開始した携帯端末向けの地上デジタル放送である“ワンセグサービス”については、当社のテレビ番組において、デジタル放送の特徴であるデータ放送と㈱NTTドコモの携帯電話による電子マネーサービスである“おサイフケータイ”とを連動させたサービスを提供するなど、様々なワンセグとモバイル・インターネットとの連携サービスの開発に積極的に取り組んでいます。

この他、一般ユーザーから映像表現を集めてウェブで公開する「映像コミュニケーション」のプラットフォームを製作・運営する「フジテレビラボLLC合同会社」を設立したり、インドネシアの携帯コンテンツ会社への出資を通じて、現地のテレビ番組と連動する携帯コンテンツ開発に着手するなど、国内外の様々な事業者とのアライアンスにも取り組み、視聴者・ユーザーのニーズに対応する魅力ある放送・通信連携サービスの開発に注力しています。

Fuji TV Outline

フジテレビアウトライン

平成17年度のフジテレビは視聴者の皆様へのあたたかいご支持をいただき、ゴールデン（19時～22時）、プライム（19時～23時）、全日（6時～24時）、ノンプライム（6時～19時・23時～24時）の4つの時間帯で、いずれもトップの視聴率を獲得し、「四冠王」となりました。2年連続の「四冠王」ですが、すべての時間帯で前年度以上の高い視聴率を獲得しました。



Drama ドラマ

電車男

平成17年度の連続ドラマは年間を通じて非常に好調でした。「エンジン」「電車男」「危険なアネキ」「西遊記」と20%を超える視聴率を獲得した超ヒット番組をはじめ、映画とのユニークな連動を成立させた「海猿」や、誠実な番組作りで最終回20.5%を獲得し、大きな話題を作った感動ドラマ「1リットルの涙」など、『ドラマはフジテレビ』の健在ぶりを内外に示しました。

また、単発スペシャルドラマでも昨年11月に3夜連続で放送した「女の一代記」シリーズ、そして今年1月には「古畑任三郎・ファイナル」が視聴者の圧倒的な支持を得て、3夜平均で26%という好記録を残しました。



Variety バラエティ

はねるのトビら

バラエティ番組はますます好調で、「四冠王」V2の勢いを支えたといっても過言ではありません。昨年10月には、ティーンを中心に根強い人気をキープしていた「はねるのトビら」がゴールデンタイムに昇格、若者に強いフジテレビのイメージをさらに押し上げました。そのほか「ネプリーグ」「HEY!HEY!HEY!」「SMAP×SMAP」「クイズ!ヘキサゴンII」「トリビアの泉」「水10!」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「幸せって何だっけ」「めっちゃ²イケてるッ!」など、プライムタイムの半分以上を人気バラエティ番組が占めており、まさにバラエティはフジテレビの顔ともいえるでしょう。



Sport スポーツ

2006世界フィギュアスケート選手権

フィギュアスケートが新しい看板番組に成長。昨年12月の「2005全日本フィギュアスケート選手権」の33.7%は平成17年番組最高視聴率となり、今年3月の「2006世界フィギュアスケート選手権」も女子フリーが20%を超え、来年の東京開催にむけて期待感が高まっています。今年度もサッカー・コンフェデ杯、バレーボール・ワールドグランプリ、世界柔道、F1と国際的なイベントを中継してきたほか、トリノ五輪では人気番組「ジャンクSPORTS」のキャスター浜田雅功が日本選手の素顔を引き出しました。年末恒例の「PRIDE男祭り」では紅白裏での過去最高視聴率を記録、デイリーニュース「すぼると!」は他局にないボリュームでスポーツ情報を伝えています。



News 報道

FNNスーパーニュース

FNNニュースは絶好調でした。「スーパーニュース」は4年連続民放視聴率1位、昼の「スピーク」も平成17年度1位に躍進。「ニュースJAPAN」も深夜帯ながら大きく支持を伸ばしました。取材活動では、ライブドア事件で強制捜査から堀江被告の逮捕まで、圧倒的な速さと正確さで他社をリードしました。報道番組も制作体勢を強化、「封印された拉致…海に消えた真実～母・寺越友枝 愛の戦い41年～」が、アジアのエミー賞といわれる「アジア・テレビジョン・アワード」の05年部門グランプリを獲得し、フジテレビ報道の声価を高めました。



Life Information 情報

スタ☆メン

「めざましテレビ」「とくダネ!」と続く朝の情報番組は、視聴率が引き続き好調で、フジテレビの四冠王獲得に寄与しました。特に「とくダネ!」は平成13年2月以来5年連続で月間平均視聴率トップを堅持しています。昨年10月からスタートした「スタ☆メン」は、世の中の動きを『ひと』という視点から斬る新しいテイストの情報番組で、阿川佐和子の司会、爆笑問題のバネリスト起用の点でも注目を浴びています。「ワッツ!?ニッポン」や「ザ・ノンフィクション」は、多角的な視点や地道な取材による質の高い放送が根強い支持を受けています。



(C)金子博

CS CS放送

CS2005F1GP

CS放送フジテレビ721+739は、「2005F1GP」で土日オールセッション完全生中継しました。「ヤクルト球団主催全試合」では試合前後まで含め6時間生中継したほか、世界9ヵ国10都市で同時生中継された史上最大の音楽イベント「LIVE8」を10時間以上生中継。また、F1オフシーズンには、1981年から1986年までの貴重なレース映像を3年にわたりお届けする壮大な企画をスタートさせ、充実のプログラム編成でファンの心をとらえ、大きな反響を呼びました。さらに昨夏、ブロードバンドでのオンデマンド動画配信の有料サービス「フジテレビ On Demand」を開始し、CSオリジナルから地上波番組「報道2001」まで次々配信、ライフスタイルに合わせた新たな視聴形態として話題になりました。

Fuji TV Outline

フジテレビアウトライン



Movie 映画

THE有頂天ホテル

平成17年の邦画興行収入ランキングベスト10にフジテレビ作品は5作品がランクインしました。「ローレライ」(3/4公開)は興行収入24億円で第9位、「交渉人 真下正義」(5/7公開)は41億円で第3位、「電車男」(6/4公開)は37億円で第6位、「星になった少年」(7/16公開)は22億円で第10位、「容疑者 室井慎次」(8/27公開)は38億円で第5位とフジテレビ作品が日本映画界を席捲しました。今年に入ってから「THE有頂天ホテル」(1/14公開)が興行収入59億円(3/31現在)と邦画(実写)の歴代ベスト10に入る大記録を樹立。また「県庁の星」(2/25公開)も20億円を超える大ヒットが見込まれています。フジテレビの映画事業は放送外収入を支える大きな柱として磐石な地位を築いています。



Event イベント

アレグリア2

平成16年秋から始まったシルク・ドゥ・ソレイユの「アレグリア2」は、4大都市で14ヶ月全466公演を実施し、114万人の動員で大成功を収めました。社屋周辺では、GWに「お台場学園」、夏休みに過去最高の464万人の来場者を記録した「お台場冒険王」、冬には「HOT FANTASY ODAIBA」を実施し、愛知万博で話題になった「ユカギル・マンモス展」を同時開催しました。舞台では、ジェイムス・ディーン没後50周年企画「理由なき反抗」「エデンの東」の2作品の他、「ボーイ・フロム・オズ」「プロデューサーズ」「STOMP」など好評を博しました。また、コンサートでは「QUEEN+Paul Rodgers」「ベルリンフィル」「東芝グランドコンサート」など、ジャンルを問わず良質の音楽を提供しました。この他スポーツイベントでは、「PRIDE」「フジサンケイクラシック」「バレーボール・ワールドグランプリ」など、幅広い分野でのイベントを展開しました。



Rights Business ライツビジネス

モヤッとボール

他局に差をつけているライセンスビジネスは、今期も好調に推移しました。特にビデオグラム部門はアニメ「ドラゴンボールGT」のDVDボックス他、「ドラゴンボールZ」のバラ売りDVDが大きく売り上げを伸ばしています。ドラマでは「電車男」「救命病棟24時」、バラエティでは「リチャードホール」「はねるのトびら」のDVDが好調でした。また、番組グッズ関連では「脳内エステIQサプリ」の『モヤッとボール』が35万個売れた他、「はねるのトびら」の『はねるっち』も累計で30万個を超える大ヒットとなりました。キャラクターでは、『ゴリエ』や『バボちゃん』のライセンス商品が好調であり、イベント物販では夏の「お台場冒険王」が売り上げ新記録を達成しました。



(CGイメージ)

名称	臨海副都心スタジオ(仮称)
所在地	東京都江東区青海二丁目36番
設計施工	鹿島建設株式会社
見積査定	株式会社三菱地所設計、株式会社日建設計
敷地面積	19,373㎡ (5,860坪)
建築面積	15,121㎡ (4,574坪)
延床面積	71,117㎡ (21,513坪)
主要用途	テレビスタジオ(バラエティ、ドラマ収録用など) 編集所・事務所・一般見学施設・店舗・駐車場
構造	S構造・SRC構造・RC構造
階数	地上7階、地下1階、塔屋1階、塔屋2階
最高高さ	57m
駐車台数	215台

New Studioスタジオ「臨海副都心スタジオ」(仮称)建設計画の概要

開局50周年記念事業の一環として計画された「臨海副都心スタジオ」(仮称)建設工事は、昨年の3月28日に起工式を執り行い、着工から1年が経過した、今年の4月26日に棟上式を行いました。

建設工事は順調に進んでおり、当初の計画通り来年の3月末日には、わが国では前例の無い2層の大型スタジオが竣工いたします。

完成後には、この最新鋭のスタジオから放送だけでなく多様化するメディアに向けて、良質で魅力あるコンテンツを供給し、「デジタル・コンテンツ・ファクトリー」の本拠地として、制作効率と収益力をさらに向上させてくれるものと期待しています。

また、新スタジオは本社ビルに続く第2のランドマークを目指しており、見学施設やイベントなどを通して、様々な情報を発信していきたいと考えております。

さらに新スタジオの外装を2重のガラス構造にして省エネルギー効果を高めるほか、建物の周辺や屋上には十分な植栽を施すなど、積極的に地球環境への配慮にも取り組んでおります。



ホームページ4月の定期リニューアルでは、RSS配信を開始。専用アプリ「ラフ・ティッカー」もリリースしました。書籍ポータル「ぶっくん」や番組突撃レポート「ラフが行く!」、番組テーマ曲のポータルサイト「フジテレビミュージック」など独自企画も登場しました。9千万人が携帯電話を利用する時代に「めざましテレビ」等携帯で参加する番組連動企画を展開。「お台場冒険王」では来場者が混雑状況を確認できるサービスも実施。今年3月にはポッドキャストサービス「フジポッド」を開始、ニーズに応えた新しい展開を進めています。

Internet インターネット関連

フジテレビHP

きっかけは、フジテレビ Good News & 社会貢献

「桜の花の咲く頃に」各賞受賞&桜の苗木寄贈

「桜の花の咲く頃に」は北海道別海町の素朴な高校生たちの生活を丹念に追った良質なドキュメンタリーで、「第1回日本放送文化大賞・グランプリ」、並びに、「平成17年日本民間放送連盟賞・最優秀賞」を受賞しました。フジテレビでは、その受賞賞金で、取材の舞

台となった別海高校に感謝の気持ちを込めて桜の苗木126本を寄贈、今年6月全校生徒の手によって高校の周りを取り囲むように植樹されました。その成長は、次の時代を担っていく若い人々の困難な明日を、きっと支えてくれるものと信じています。



エチオピアの学校

「あいのり」募金

「あいのり」は、世界を旅しながら恋愛を成就させる若者たちを描いたドキュメントバラエティですが、平成16年4月から「あいのり募金」の活動を行っています。これは世界各地が抱える貧困や子供の教育の問題解決への貢献を目的としたもので、現在までに3,100万円を超える募金が全国の視聴者から集ま

り、番組で訪れたアフリカを中心とする12カ所の施設や団体に届けられました。なかでも昨年エチオピアとケニアでこの資金をもとに「あいのり学校」が建設され、その様子は番組でも報告、視聴者から大きな反響をいただきました。

アジアン・テレビジョン・アワード受賞

「封印された拉致…海に消えた真実 ～母・寺越友枝 愛の戦い41年～」

北朝鮮拉致の問題をテーマにしたドキュメンタリードラマ「封印された拉致…海に消えた真実～母・寺越友枝 愛の戦い41年～」が、昨年12月、アジアのエミー賞と呼ばれる「アジアン・テレビジョン・アワード」のドキュメンタリードラマ部門でグランプリを獲得、内外のメディアは、『拉致を題材にした番組

がアジアで最高の榮譽」と、この受賞を称えました。フジテレビ報道局では、この番組以外にも、関係者への地道な取材をもとに、拉致問題を追及したドキュメンタリードラマを制作しており、こうした番組を通じて、拉致問題の解決を訴え続けています。



ローズドール・チャリティ・アワード受賞

フジネットワーク チャリティキャンペーン32年間の社会貢献が世界的に評価



フジネットワーク チャリティキャンペーンは、FNS28局と日本ユニセフ協会が協力し『アジア・アフリカの恵まれない子どもを救おう』を合言葉に1974年に設立されました。以来、昨年まで32年間、毎年平均1億円の募金を集め、その募金は、アジアとアフリカの子どもたちのための支援に使われています。今回の受賞にあたりスイスの国際的なテレビ祭であるローズドール（金のバラ）の主催者も、『興味深い番組を制作し放映していく以外にも、メディア企業の社会的責任を実現していく好例』として高く評価しています。チャリティ・アワードは、過去個人が受賞しており、団体での受賞は世界初の快挙となります。

フジネットワーク チャリティキャンペーンでは、今後もFNS28局一丸となり、アジア・アフリカの恵まれない子どもたちのために積極的に活動を進めてまいります。

技術開発 ～現場の発想を具現化する～

『コンテンツ制作に必要な機材は自社開発する』という方針のもと、フジテレビは技術開発にも注力しています。当期は、独自技術によるマラソンの完全HD中継の実現、特定音楽消去システムの開発によるコンテンツの2次利用の促進、新型モーションコントロールカメラシステムの開発・運用などの成果が認められ、さまざまな技術開発賞に輝きました。これらの技術は、NAB2005(ラスベガス)やInterBEE2005(幕張メッセ)など国内外の大型展示会で幅広

く発信、放送文化への貢献とともに、積極的な外部事業展開を図っています。

◎平成17年度の主な受賞

- 「日本映画テレビ技術協会 技術開発賞」
- 「放送文化基金賞 個人 グループ部門 放送技術」
- 「映像情報メディア学会 技術振興賞放送番組技術賞」
- 「映像情報メディア学会 ハイビジョン技術賞」
- 「映像情報メディア学会 技術振興賞進歩賞」
- 「日本民間放送連盟技術部門 優秀賞」



ワンセグ

地上デジタル放送のワンセグサービスが、2006年4月1日よりスタートしました。地上デジタル放送では、1チャンネルの帯域を、13個のセグメントに分けて使用することが可能です。そのうち12セグメントは家庭のテレビ向けにハイビジョン放送やデータ放送を行っており、残りの1セグメントを使用するのがワンセグサービスです。

ワンセグ
楽しい
ワン!



■放送と通信の連携

～双方向サービスへの期待～

ワンセグサービスのもう一つの特長は、独自のデータ放送です。ワンセグ対応携帯電話など、通信機能を持つ端末なら、誰でも簡単に双方向型のサービスを利用することが可能です。

例えば、ワンセグのデータ放送から、クリック一つで、番組の携帯サイトにアクセスし、様々な情報や着メロ、待受画像などのコンテンツを得ることも可能になります。ワンセグサービスと携帯公式サイトの連携を図ることで、さらにビジネスチャンスを広げることが期待できます。

■ワンセグサービスが開く、テレビの未来

ワンセグサービスは、普及が進めば、テレビの新しい見方、そして使い方を、生み出していくことでしょう。当社は、ワンセグサービスの様々な可能性を追求しながら、その取り組みを、デジタル時代の新たなビジネスへと結実させていきたいと考えています。

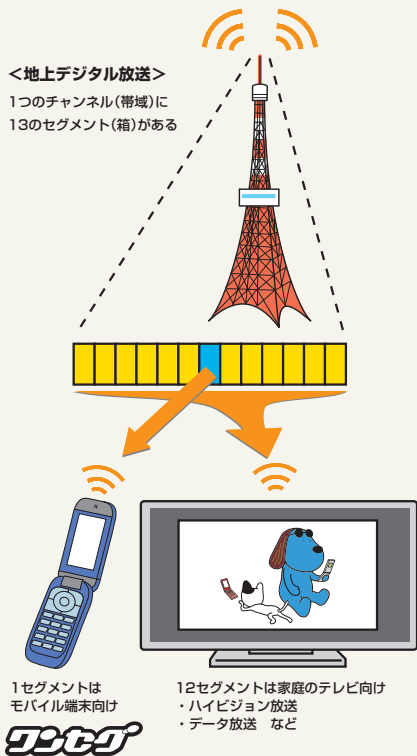
ワンセグの魅力とは

■いつでもテレビ、どこでもテレビへ

ワンセグサービスでは、携帯電話やPDAなどの小型の端末で、デジタル放送を楽しむことができます。しかも、アナログ放送と違い、電車や自動車で移動中でもクリアな映像を楽しめます。外出先など、今までテレビを見られなかった場所で、新たな視聴機会が生まれ、ワンセグが「いつでもテレビ、どこでもテレビ」として、テレビのメディア価値を高めていくことが期待されています。

■広がるワンセグ対応端末

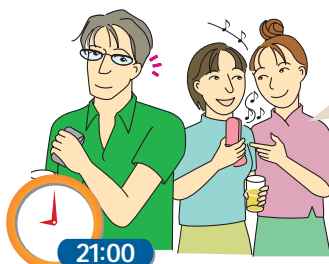
既にワンセグに対応した携帯電話が発売されており、ユーザーの関心を集めていますが、この他にもノートパソコンや、携帯型ゲーム機など、受信端末も様々な広がりを見せています。今後、幅広い層に支持されながら、ワンセグサービスが普及しそうです。



ワンセグフル活用! **42歳**
フジはじめさんの
ワンセグ
Life




ワンセグサービスで
「いつでもどこでもフジテレビ」が実現します!
 ちょっぴりハッピーなフジはじめさんの
 ワンセグのある一日。

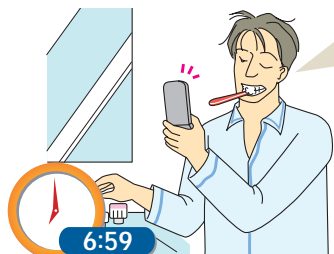


「あれ??隣の席でドラマの主題歌の着メロが!」「オレも早速着メロをゲットしないと。フジテレビの携帯サイトにアクセスして・・・」流行に敏感な、フジはじめ42歳。

着メロダウンロード



フジテレビワンセグサービスは携帯サイトと連携し、着メロダウンロードをはじめ、様々なコンテンツを提供するなど新しいビジネスチャンスの発展に努めます。



「ジリジリジリ・・・」
 目覚ましに起こされる。「う～眠い・・・」
 昨日の仕事の疲れが寝ても抜けない、
 フジはじめ42歳。
 眠い目をこすりながらも早速ワンセグで「めざましテレビ」を見る。「そうだ!今日の占いカウントダウン」をチェックしよう!」「おっ!今日のしし座は運がよい!ラッキー!」占いの結果を素直に喜んでしまう、フジはじめ42歳。



フジテレビワンセグサービスは、ドラマ、バラエティ、ニュース、情報、スポーツなど、様々なジャンルの番組と連動したデータ放送を提供しております。

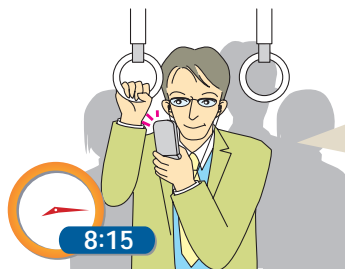
運動企画が楽しめる番組

(平成18年4月30日現在)

ジャンル	番組名	放送時間
情報	めざましテレビ	月～金 5:25～8:00
ニュース	スーパーニュース	月～金 16:55～17:54
	FNNスーパーニュース	月～金 17:54～19:00
ドラマ	トップキャスター	月 21:00～21:54
	アテンションプリーズ	火 21:00～21:54
	ブスの瞳に恋してる	火 22:00～22:54
	医龍 Team Medical Dragon	木 22:00～22:54
	偽りの花園	月～金 13:30～14:00
バラエティ	トリビアの泉	水 21:00～21:54
	ひるごた!	金 14:05～15:00
	脳内エステ IQサプリ	土 19:00～19:57
	発掘!あるある大事典II	日 21:00～21:54
スポーツ	BASEBALL LIVE 2006	



今日は友人と飲み会。久しぶりに会った仲間なので、大いに盛り上がる。「ワンセグを自慢しちゃおう!ほら!脳内エステIQサプリ、みんなで見ない?」「いや～仕事は「モヤッと」、お酒は「スッキリ!」新しいものを自慢したい、フジはじめ42歳。



「あっ、今朝の新聞読んでない。ワンセグでニュースをチェックしよう」「通勤途中でも最新のニュースを確認できることは便利だな～」
 出社前に情報をチェックしたい、フジはじめ42歳。




ニュース・天気予報

フジテレビワンセグサービスでは、最新のニュース、天気予報をデータ放送で提供しております。



カタカタカタ・・・ユッサユッサ!
 「おっと地震!」
 ワンセグで震度確認。「結構大きかったな。震源地が実家の近くか!実家は大丈夫かな?電話してみよう」(実家に電話)「ふ～実家は問題なし!親しいの、フジはじめ42歳。

災害情報



フジテレビワンセグサービスは、災害時に役立つ情報を提供することも重要な目的としており、津波警報・注意報、地震情報、大雨警報、避難勧告等の情報が発表された場合、速やかに災害情報をデータ放送トップに提示します。

※電車やバスの中でお使いになる場合は、周囲の方のご迷惑にならないようお楽しみ下さい。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	(平成18年3月31日現在)	(平成17年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	261,031	318,810
現金及び預金	49,986	38,855
受取手形及び売掛金	111,958	98,127
有価証券	30,008	135,881
たな卸資産	22,517	22,557
繰延税金資産	5,424	6,256
その他流動資産	41,591	17,311
貸倒引当金	△ 454	△ 179
固定資産	431,308	362,380
有形固定資産	154,342	127,626
建物及び構築物	89,898	89,484
機械装置及び運搬具	16,372	13,302
土地	27,079	20,340
建設仮勘定	11,439	1,287
その他有形固定資産	9,550	3,211
無形固定資産	45,461	43,598
営業権	1,674	—
借地権	15,356	14,393
ソフトウェア	15,521	12,839
連結調整勘定	—	3,774
その他無形固定資産	12,908	12,590
投資その他の資産	231,504	191,155
投資有価証券	211,197	176,097
長期貸付金	920	102
繰延税金資産	3,873	3,614
その他投資	20,277	15,317
貸倒引当金	△ 4,763	△ 3,975
繰延資産	17	—
社債発行差金	17	—
資産合計	692,357	681,190

科目	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	(平成18年3月31日現在)	(平成17年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	105,738	98,152
支払手形及び買掛金	51,330	45,540
短期借入金	5,989	2,015
未払法人税等	2,373	14,668
返品調整引当金	839	138
契約解除損失引当金	—	16
その他流動負債	45,206	35,772
固定負債	114,793	93,864
社債	50,000	—
新株予約権付社債	366	63,223
長期借入金	1,904	293
繰延税金負債	22,077	3,219
退職給付引当金	30,794	23,863
役員退職慰労引当金	3,327	2,880
連結調整勘定	5,439	—
その他固定負債	885	383
負債合計	220,532	192,017
少数株主持分		
少数株主持分	8,921	10,084
資本の部		
資本金	146,200	114,750
資本剰余金	175,275	142,214
利益剰余金	269,855	272,090
土地再評価差額金	△ 435	2,103
株式等評価差額金	32,621	18,545
為替換算調整勘定	237	△ 1,236
自己株式	△ 160,851	△ 69,380
資本合計	462,903	479,088
負債、少数株主持分 及び資本合計	692,357	681,190

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	(平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	593,493	476,733
売上高	593,493	476,733
営業費用	542,769	433,152
売上原価	383,592	301,561
販売費及び一般管理費	159,176	131,591
営業利益	50,724	43,581
営業外損益の部		
営業外収益	4,998	3,036
受取利息及び配当金	1,367	1,075
持分法による投資利益	1,312	657
その他営業外収益	2,319	1,303
営業外費用	5,383	2,138
支払利息	404	123
新株発行費	532	94
社債発行費	215	68
投資事業組合投資損失	1,948	594
公開買付費用	—	188
その他営業外費用	2,281	1,069
経常利益	50,340	44,478
(特別損益の部)		
特別利益	11,922	88
固定資産売却益	7	8
投資有価証券売却益	11,647	69
貸倒引当金戻入益	98	—
その他特別利益	169	10
特別損失	36,147	4,837
固定資産売却損	203	281
固定資産除却損	284	434
投資有価証券売却損	34,885	46
投資有価証券評価損	385	286
会員権等評価損	19	45
会員権預託金貸倒引当金繰入額	47	281
貸倒引当金繰入額	—	2,503
契約解除損失引当金繰入額	—	16
契約解除損失	—	631
その他特別損失	320	308
税金等調整前当期純利益	26,115	39,730
法人税、住民税及び事業税	9,607	19,475
法人税等調整額	3,769	△ 1,456
少数株主利益 (△は損失)	1,392	△ 1,134
当期純利益	11,345	22,845

注記

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子法人等の数：30社 (株)ニッポン放送、(株)ディノス、(株)ポニーキャニオン等

(株)LFホールディングス(旧商号：(株)ライブドア・パートナーズ)の株式取得により、(株)ニッポン放送が持分法適用関連会社から連結子法人等となりました。(株)LFホールディングスは平成17年7月に当社と合併し消滅しました。

(株)ニッポン放送の子会社化に伴い、(株)ポニーキャニオンおよび(株)フジサンケイアドワークが持分法適用関連会社から連結子法人等に、(株)ニッポン放送プロジェクトおよび(株)ビッグショットが新たに連結子法人等になりました。

(株)ポニーキャニオンの子会社化に伴い、(株)ポニーキャニオンエンタープライズが新たに連結子法人等になりました。

なお、連結子法人等であった(株)フジテレビフューチャネットは、連結子法人等である(株)フジミックと合併し消滅しました。

(2) (株)エフシージー総合研究所、(株)ティールコムコーポレーション、(株)フジテレビ出版、(株)フジサンケイエージェンシー等の非連結子法人等26社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産・売上高・当期純損益および利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

(3) 当社および子法人等の出資持分割合が100分の50を超える投資事業有限責任組合等のうち、実質的に支配していないと認められるため、子法人等として取り扱っていないものが2つあります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子法人等の数：4社 (株)エフシージー総合研究所、(株)ティールコムコーポレーション、(株)フジテレビ出版、(株)フジサンケイエージェンシー

(2) 持分法適用の関連会社の数：8社 (株)サンケイビル、(株)産業経済新聞社、(株)ビーエスフジ等

(株)LFホールディングス(旧商号：(株)ライブドア・パートナーズ)の株式取得により、(株)ニッポン放送が持分法適用関連会社から連結子法人等となりました。

(株)ニッポン放送の子会社化に伴い、(株)ポニーキャニオンおよび(株)フジサンケイアドワークが持分法適用関連会社から連結子法人等に、(株)フジサンケイエージェンシーが持分法適用関連会社から持分法適用の子法人等になりました。

(株)ポニーキャニオンの子会社化に伴い、(株)メモリーテックが新たに持分法適用関連会社となりました。

(3) (株)サウンドマン、(株)フジテレビキッズ、(株)ニッポンプランニングセンター等の子法人等および関連会社は、それぞれ当期純損益および利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法適用の範囲から除外しております。

3. 連結子法人等の資産および負債の評価に関する事項

連結子法人等の資産および負債の評価方法は、全面時価評価法によっております。

4. 連結調整勘定の償却に関する事項

発生原因に応じ20年以内の一定の年数で均等償却することとしております。ただし、重要性のないものについては発生年度に全額償却しております。

(連結貸借対照表関係)

1. 有形固定資産の減価償却累計額…105,768百万円

2. 保証債務…3,927百万円

(連結損益計算書関係)

1株当たり当期純利益…5,109円42銭

単独財務諸表

Non-Consolidated Financial Statements

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	(平成18年3月31日現在)	(平成17年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	174,616	263,480
現金及び預金	4,482	8,975
受取手形	33,515	34,912
売掛金	51,692	51,212
有価証券	26,288	131,541
番組勘定及びその他の製作品	15,842	17,426
貯蔵品	48	54
前渡金	5,667	5,793
前払費用	1,263	1,160
繰延税金資産	3,108	4,636
短期貸付金	20,003	6
未収還付法人税等	2,315	—
その他流動資産	10,604	7,924
貸倒引当金	△ 215	△ 162
固定資産	540,976	400,787
有形固定資産	132,164	124,665
建物	83,161	87,391
構築物	1,077	1,077
機械及び装置	14,011	11,627
航空機	16	3
車両運搬具	111	145
工具器具備品	3,048	2,825
土地	20,132	20,239
建設仮勘定	10,605	1,356
無形固定資産	31,366	27,701
営業権	1,674	—
借地権	14,393	14,393
ソフトウェア	14,937	12,919
その他無形固定資産	360	387
投資その他の資産	377,444	248,420
投資有価証券	184,143	216,640
子会社株式	182,940	21,466
その他の関係会社有価証券	6,149	6,001
長期前払費用	404	350
その他投資	4,630	5,178
貸倒引当金	△ 824	△ 1,217
繰延資産	17	—
社債発行差金	17	—
資産合計	715,610	664,267

科目	当 期	前 期
	(平成18年3月31日現在)	(平成17年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	59,023	72,452
支払手形	8,678	8,678
買掛金	21,018	22,110
未払金	11,868	11,179
未払費用	7,524	7,310
未払法人税等	—	13,094
未払消費税等	1,042	357
前受金	937	849
預り金	2,562	3,474
従業員預り金	3,400	3,478
返品調整引当金	46	42
その他流動負債	1,944	1,876
固定負債	80,650	83,761
社債	50,000	—
新株予約権付社債	—	62,900
繰延税金負債	10,495	703
退職給付引当金	18,628	18,119
役員退職慰労引当金	1,172	1,549
その他固定負債	354	489
負債合計	139,674	156,213
資本の部		
資本金	146,200	114,750
資本剰余金	175,275	142,214
資本準備金	173,664	142,214
その他資本剰余金	1,610	—
自己株式処分差益	1,610	—
利益剰余金	238,446	249,572
利益準備金	4,385	4,385
任意積立金	228,300	221,300
別途積立金	228,300	221,300
当期末処分利益	5,760	23,887
株式等評価差額金	31,196	17,653
自己株式	△ 15,183	△ 16,137
資本合計	575,935	508,053
負債・資本合計	715,610	664,267

損益計算書

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	(平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	(平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	381,564	376,039
売上高	381,564	376,039
営業費用	341,760	337,253
売上原価	244,825	242,208
販売費及び一般管理費	96,934	95,044
営業利益	39,804	38,785
営業外損益の部		
営業外収益	3,627	2,800
受取利息及び配当金	2,255	1,524
雑収入	1,371	1,275
営業外費用	3,393	1,415
支払利息	219	98
新株発行費	532	30
社債発行費	215	68
投資事業組合投資損失	981	38
公開買付費用	—	188
雑損失	1,445	991
経常利益	40,038	40,170
(特別損益の部)		
特別利益	11,563	116
固定資産売却益	5	0
投資有価証券売却益	11,558	116
特別損失	38,523	2,403
固定資産売却損	151	269
固定資産除却損	178	390
投資有価証券売却損	34,505	—
投資有価証券評価損	3,634	1,474
会員権等売却損	0	4
会員権等評価損	8	4
会員権預託金貸倒引当金繰入額	45	260
税引前当期純利益	13,078	37,882
法人税、住民税及び事業税	5,211	17,131
法人税等調整額	2,028	△ 1,218
当期純利益	5,838	21,970
前期繰越利益	5,522	3,410
中間配当額	5,599	1,493
当期末処分利益	5,760	23,887

利益処分

(単位：円)

科目	当 期	前 期
1. 当期末処分利益の処分		
当期末処分利益	5,760,943,499	23,887,021,040
別途積立金取崩額	150,000,000,000	—
計	155,760,943,499	23,887,021,040
これを次のとおり処分いたします。		
配当金	4,606,192,000 〔1株につき2,000円〕	11,266,796,244 〔1株につき4,400円〕
役員賞与金	79,800,000	98,000,000
(うち監査役賞与金)	(10,500,000)	(9,800,000)
別途積立金	—	7,000,000,000
次期繰越利益	151,074,951,499	5,522,224,796
2. その他資本剰余金の処分		
その他資本剰余金	1,610,958,752	—
これを次のとおり処分いたします。		
その他資本剰余金次期繰越額	1,610,958,752	—

注 平成17年12月9日に5,599,604,800円(1株につき2,000円)の中間配当を実施いたしました。

注記

(貸借対照表関係)

- 子会社に対する金銭債権および債務

短期金銭債権	23,309百万円
長期金銭債権	7百万円
短期金銭債務	4,390百万円
長期金銭債務	159百万円
- 有形固定資産の減価償却累計額
- 偶発債務

保証債務	3,927百万円
------	----------
- 重要なリース資産
貸借対照表に計上した固定資産のほか、テレビジョン放送設備および電子計算機をリース契約により使用しております。
- 配当制限
貸借対照表に計上されている「株式等評価差額金」の31,196百万円については、時価評価したその他有価証券の時価の総額が取得価額の総額を超えたことにより増加した純資産額であるため、商法施行規則第124条第3号の規定により、配当に充当することが制限されております。
- 当期までに取得した有形固定資産のうち国庫補助金等による圧縮記帳額は、構築物118百万円、機械及び装置57百万円であり、貸借対照表計上額は、この圧縮記帳額を控除しております。

(損益計算書関係)

- 子会社との間の取引

営業収益	24,326百万円
営業費用	43,450百万円
営業取引以外の取引高	6,483百万円
- 一般管理費に含まれる研究開発費は358百万円であります。
- 1株当たり当期純利益 2,117円61銭

■フジテレビグループ会社

主要な会社	事業内容
放送事業（テレビ放送事業、ラジオ放送事業）	
当社 （株）ニッポン放送	テレビ放送 ラジオ放送
放送関連事業（放送番組の企画制作・技術・中継等）	
（株）共同エディット	VTR編集等の請負
（株）共同テレビジョン	テレビ番組、CM、PR映像等の制作
（株）バスク	テレビドラマ・映画等の制作技術請負
（株）八峯テレビ	番組制作技術
（株）バンエイト	放送番組等の企画制作
（株）フジアル	放送番組、イベント催事の実施企画制作
（株）フジクリエイティブコーポレーション	放送番組販売、番組制作等
（株）フジライティング・アンド・テクノロジー	放送舞台等の照明技術
（株）ベイス	番組制作協力、番組およびビデオ制作
FUJUI INTERNATIONAL PRODUCTIONS(UK)LTD.	放送番組等の企画制作
FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	放送番組等の企画制作、フジサンケイグループの海外業務受託
通信販売事業（通信販売、生花販売）	
（株）ディノス	通信販売業
（株）フジテレビフラワーセンター	生花通信販売
映像音楽事業（オーディオ、ビデオソフト等の製造販売、音楽著作権管理等）	
（株）シンコーミュージック・パブリッシャーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
（株）フジパシフィック音楽出版	楽譜の出版、内外国楽譜・著作権の管理、原盤の企画・制作
任意組合フジ・ミュージックパートナーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
（株）ポニーキャニオン	オーディオ・ビデオソフトの制作販売
（株）ポニーキャニオンエンタープライズ	録音録音用テープ・ディスクの製造販売
FUJIPACIFIC MUSIC(USA), INC.	音楽著作権の取得、その使用許諾
FUJISANKEI CALIFORNIA ENTERTAINMENT, INC.	音楽出版事業への投資等
T/Q MUSIC, INC.	楽譜の出版、楽譜・著作権の管理、新たな楽譜・著作権の取得
WINDSWEEP CLASSICS, INC.	音楽出版事業への投資等
その他事業（人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発、出版等）	
（株）ニッポン放送プロジェクト	リース業
（株）ビッグショット	広告代理業、イベント制作
（株）フジカルチャープランニング	美術品販売、リース業
（株）フジサンケイアドワーク	広告代理業
（株）フジサンケイ人材センター	人材派遣業、有料職業紹介事業
（株）フジミック	情報サービス業
（株）扶桑社	雑誌・書籍の出版

■フジネットワーク28局

UHB	北海道文化放送（株）
MIT	（株）岩手めんこいテレビ （株）仙台放送
AKT	秋田テレビ（株）
SAY	（株）さくらんぼテレビジョン
FTV	福島テレビ（株） （株）フジテレビジョン
NST	（株）新潟総合テレビ
NBS	（株）長野放送
SUT	（株）テレビ静岡
BBT	富山テレビ放送（株）
ITC	石川テレビ放送（株）
FTB	福井テレビジョン放送（株）
THK	東海テレビ放送（株）
KTV	関西テレビ放送（株）
TSK	山陰中央テレビジョン放送（株）
OHK	岡山放送（株）
TSS	（株）テレビ新広島
EBC	（株）テレビ愛媛
KSS	高知さんさんテレビ（株）
TNC	（株）テレビ西日本
STS	（株）サガテレビ
KTN	（株）テレビ長崎
TKU	（株）テレビ熊本
TOS	（株）テレビ大分
UMK	（株）テレビ宮崎
KTS	鹿児島テレビ放送（株）
OTV	沖縄テレビ放送（株）



歌うように、くらそう。

dinos

カタログ、テレビ、インターネット。私たちディノスは、多彩なメディアと、フジサンケイグループというマスコミ集団のパワーを駆使した通信販売事業を展開しています。昨年から「歌うように、くらそう。」をブランドスローガンに、「商品の品質、受注サービス、配送サービス」の“三位一体となったサービスアップ”を進めています。また、ショッピング専門チャンネルによる新事業領域への挑戦や、インターネット事業のさらなる拡大、新しい女性顧客層へのアプローチなど、さらなる発展に向けて取り組んでいます。

歌うように、くらそう。

当社の新しいブランドスローガンです。ディノスがお届けする品物から喜びが広がっていく実感に、つい歌いたくなるような日々をあなたに過ごして欲しい、そんな願いがこめられています。

● 事業内容

● 通信販売事業(カタログ・地上波・CS・BS放送・インターネット・雑誌・新聞)

- ・ 季刊**カタログ**: ディノスリビング、&Dinos、ハウススタイリング、Cara
- ・ **スペシャルカタログ**: ダーマコレクション、リカコスタイル、RULE、THE SNOOPY BOOK 他
- ・ **地上波**: いいものブラボー!、セリーのなないろビューティ、ものすばると! 他
- ・ **CS放送**: フジテレビ、ディノス(写真①)

● 直販事業(催事・店舗)

- ・ **催事**: Dolスポーツスペシャルバザール、さよなら大バーゲン(写真②)、TOKYO家具祭 他
- ・ **店舗**: DAMA&Cara(ダーマ&カーラ)(写真③)、ハウススタイリング吉祥寺、フラッシュ

● その他(旅行業・保険代理業・卸事業)



“売り手はお客様の顔が見えない。お客様は商品の実物が見えない” これは「通信販売」というビジネスモデルの宿命です。両者を結びつけるのはただ1つ、「信頼」。互いの信頼の上に成り立つビジネスだからこそ、それを裏切らない品質とサービスが要求されます。我々の事業戦略の軸は、常に「信頼」だと思っています。

代表取締役社長 高橋 一元

● Corporate Data | 会社概要

商号	株式会社ディノス
所在地	本社 東京都中央区本町2丁目46番2号
創業	昭和46年12月
設立	平成3年3月25日
資本金	20億円
売上高	651億円(平成16年度)
主な株主	株式会社フジテレビジョン
主な子会社	セントラルインベックス株式会社
地区ディノス	静岡・京都・和歌山・岡山 広島・愛媛・西日本
従業員数	302名
主な所属団体	日本通信販売協会・日本貿易振興会・DMA 東京商工会議所・日本旅行業協会 ERA(Electronic Retailing Association) AACD(日本流通自主管理協会) 他



● Corporate History | 会社沿革

- S.46 12月 「株式会社ディノス」創業
- S.47 1月 業務開始 フジテレビ「リビング4」「リビング11」として、日本初のテレビショッピングおよび催事事業スタート
- S.47 11月 ゼネラルカタログ「フジサンケイリビングカタログ」(「ディノスカタログ」・「ディノスコレクション」の前身)第一号発行
- S.48 6月 「株式会社フジサンケイリビングサービス」に社名変更
- S.58 9月 日本通信販売協会設立、初代会長(見嶋正憲社長)となる
- S.59 12月 ロンドン、パリ、ローマ衛星生中継「世界の一流品バザール」実施
- H.3 3月 フジサンケイグループの再編に伴い新会社設立
資本金20億円に増資
- H.6 4月 カatalog「ハウススタイリング」発行
- H.8 12月 中野坂上に本社移転
- H.10 6月 「ハウススタイリング」が米「アニュアル・カタログ・アワード」インターナショナル・コンシューマー・カタログ部門金賞受賞
- H.14 10月 カatalog「&Dinos(アンドディノス)」の発行
- H.15 5月 スポーツグッズのショッピング番組「ものすばると!」スタート
CS110° 放送「フジテレビディノス」開局
- H.16 10月 「株式会社ディノス」に社名変更
- H.17 1月 ブランドロゴマークをリニューアル
コーポレートカラーをディノスグリーンに

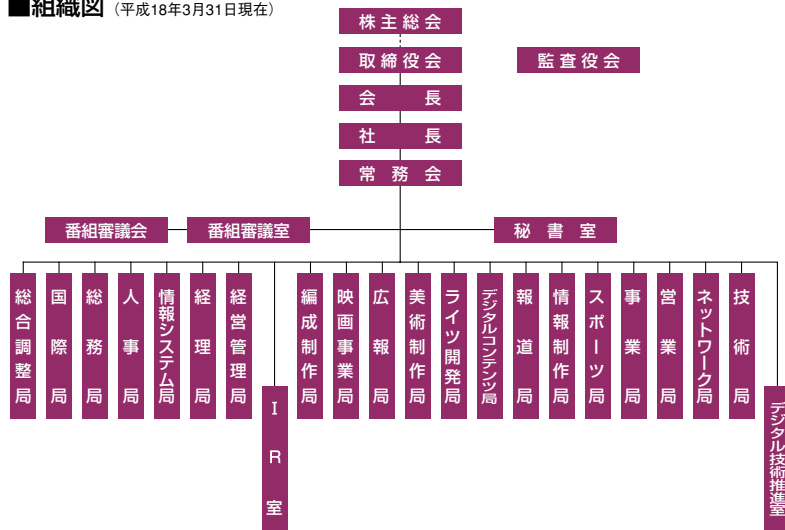
会社概況

Corporate Data

■会社概要 (平成18年3月31日現在)

商号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
設立	昭和32年11月18日
放送開始	昭和34年3月1日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
従業員数	1,384名
事業所	
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 03-5500-8888 (大代表)
スタジオ	
送信所	〒105-0011 東京都港区芝公園四丁目2番8号 東京タワー内
関西支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目4番4号 アクア堂島東館 (EAST17階)
名古屋支社	〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目14番25号 テレビア13階
横浜支局	〒231-0005 横浜市中区本町二丁目22番地 日本生命横浜本町ビル
前橋支局	〒371-0026 前橋市大手町二丁目6番17号 住友生命前橋ビル8階
海外支局・事務所	ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、ベルリン、カイロ、モスクワ、北京、ソウル、バンコク、クアラルンプール、ローマ事務所
ホームページアドレス	http://www.fujitv.co.jp

■組織図 (平成18年3月31日現在)



■役員 (平成18年6月29日現在)

代表取締役会長	日枝久
代表取締役社長	村上光一
専務取締役	横井亮介
専務取締役	宮内正喜
常務取締役	豊田皓
常務取締役	山田良明
常務取締役	嘉納修治
常務取締役	太田英昭
常務取締役	小櫃真佐己
取締役	内堀眞澄
取締役	秋保豊親
取締役	久保田榮一
取締役	飯島一暢
取締役	松岡功喜
取締役	佐藤重喜
取締役	石黒大山
取締役	出馬迪男
取締役	別府隆文
取締役	清原武彦
常勤監査役	近藤俊一郎
常勤監査役	伊藤八朗
常勤監査役	尾上規喜
監査役	茂木友三郎
監査役	南直哉

株式情報

Investor Information

(平成18年3月31日現在)

■株式の状況

会社が発行する株式の総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,938,002.84株
株主数	73,840名

(注) 株式数および株主数は自己株式、端株式を含んでおります。

■大株主

株主名	当社への出資状況		当社の株主への出資状況	
	持株数 (株)	比率 (%)	持株数 (株)	比率 (%)
株式会社ニッポン放送	573,704.00	19.53	26,424,159	100.00
東宝株式会社	183,221.00	6.24	4,940,000	2.61
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	131,450.00	4.47	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	119,940.00	4.08	—	—
株式会社文化放送	77,920.00	2.65	—	—
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000.00	2.62	—	—
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	57,387.00	1.95	—	—
関西テレビ放送株式会社	54,461.00	1.85	1,985	19.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500.00	1.58	—	—
バンク オブ バーミユータ リミテッド ハミルトン	41,606.00	1.42	—	—

(注) 株式会社ニッポン放送所有の573,704株は、議決権のない相互保有株式であります。

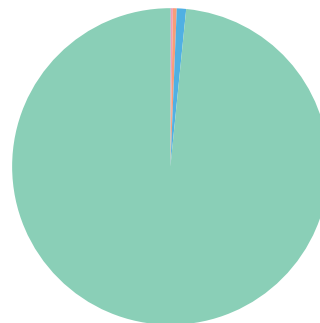
(注) 上記のほか当社所有の自己株式61,202.84株があります。

■後発事象について

- 平成18年4月1日の株式会社ニッポン放送の会社分割および吸収合併により、株式会社ニッポン放送所有の573,704株は当社の自己株式となりました。
- 平成18年5月16日に573,704.84株の自己株式消却を行った結果、発行済株式の総数は、2,364,298株となっております。

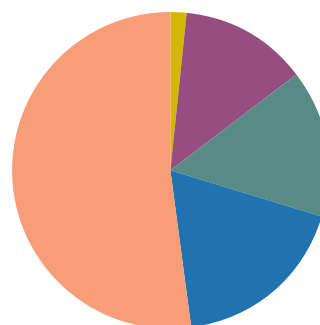
■所有者区分別株式分布状況

【株主数】



証券会社	29名 (0.04%)
金融機関	154名 (0.21%)
外国法人等	291名 (0.39%)
国内法人	703名 (0.95%)
個人他	72,663名 (98.41%)

【株式数】



証券会社	48,098株 (1.64%)
個人他	382,248株 (13.01%)
外国法人等	442,792株 (15.07%)
金融機関	534,248株 (18.18%)
国内法人	1,530,616株 (52.10%)

(注) 株式数は端株式を除いております。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
利益配当金	決算期における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
外国人等の株主名簿への記載の制限	放送法に関連して、当社の定款には次の規定があります。 第9条 本会社は、次の各号に掲げる者（以下、「外国人等」という）のうち第1号から第3号までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が本会社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法第52条の8第1項及び第2項の規定により、外国人等の取得した株式について、株主名簿（実質株主名簿を含む。以下同じ）に記載又は記録することを拒むことができる。 1. 日本の国籍を有しない人 2. 外国政府又はその代表者 3. 外国の法人又は団体 4. 前3号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体
株式の名義書換 株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社本店証券代行部 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社本店および全国各支店
公 告 掲 載 紙	産業経済新聞

